

県内フードバンクへのアンケート結果 取りまとめ

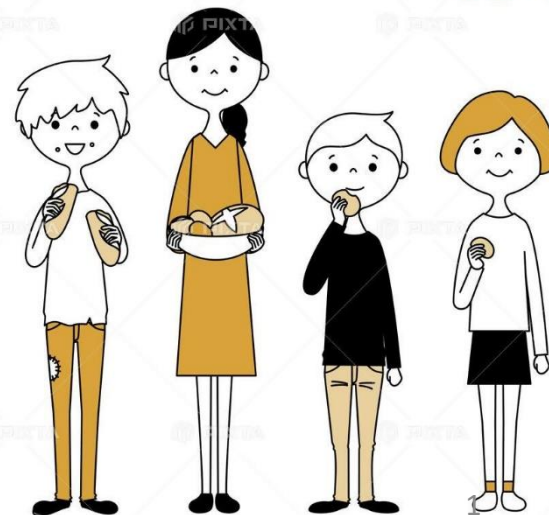


SDGs



私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。
SDGs 未来都市 神奈川県

いのち・未来戦略本部室



1 アンケート概要

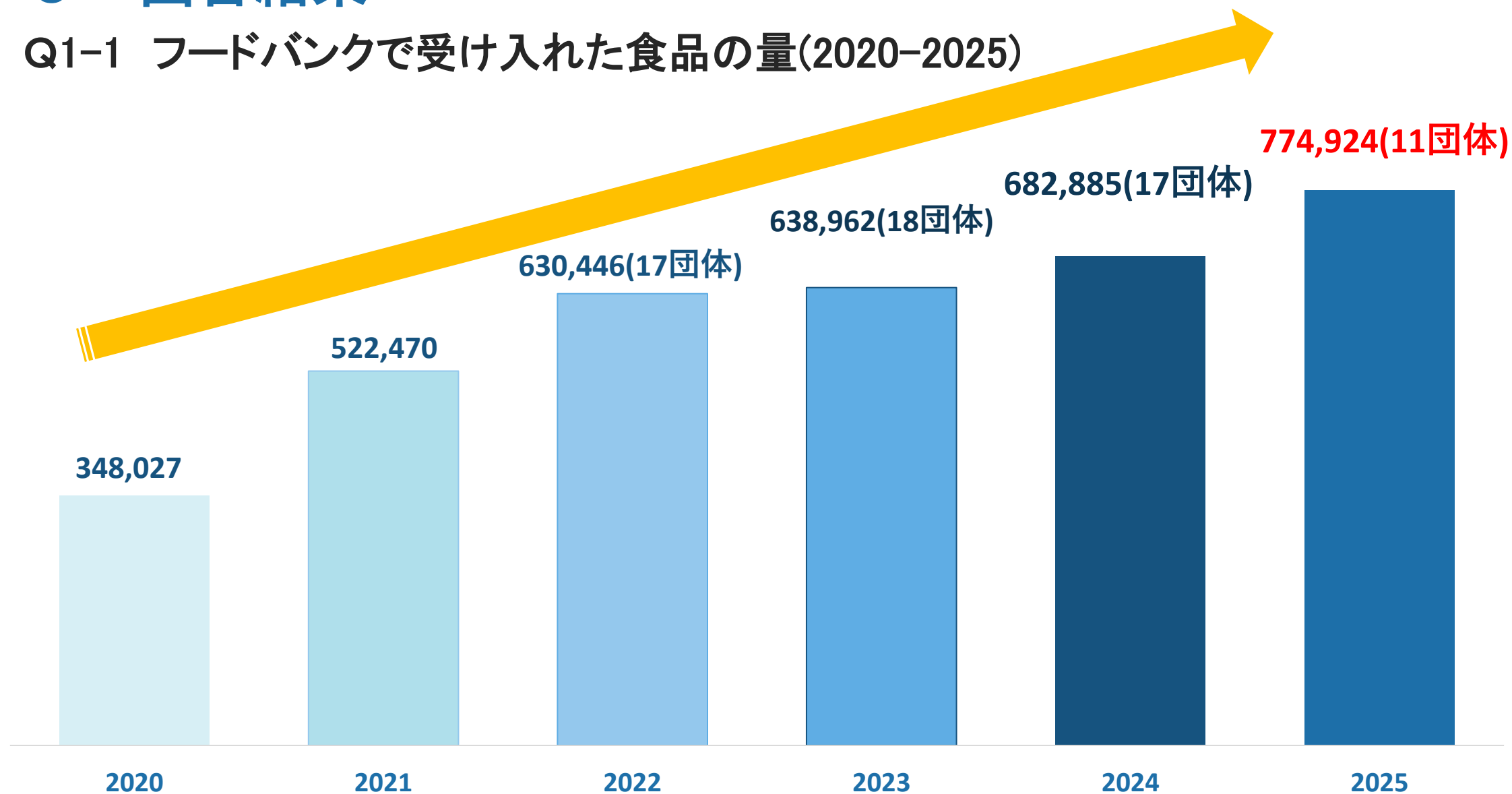
目的	県内フードバンク団体のフードバンク活動の実態把握
対象者	県内で活動するフードバンク団体【全21団体中 <u>11団体</u> が回答】
調査項目	次ページ参照
回答期間	2026年6月9日から6月23日
依頼方法	電子メールにてアンケート回答用紙を送付。

2 アンケート調査項目

番号	質問内容
Q 1 - 1	2025年度、貴フードバンクで受け入れた食品の量は年間でどれくらいですか。
Q 1 - 2	受入れ量が増えている/減っている理由で、思いつくものがあれば教えてください。
Q 2 - 1	食品の受入量は足りていますか。あてはまるものに○をつけてください。
Q 2 - 1 - 1	食品が足りない時にどういった対応をしていますか。あてはまるものに○をつけてください。
Q 2 - 2	特に不足している食べ物は何ですか。該当するものに○をつけてください。
Q 3	食品の受け渡しにおける課題は何ですか。あてはまるものに○をつけてください。また、特筆すべき課題や現状があれば、ご記入ください。
Q 4 - 1	団体の活動周期（例：週に1回など）はどのくらいですか。
Q 4 - 2	食品を管理している場所はどこですか。あてはまるものに○をつけてください。
Q 5	一番課題に感じていることを教えてください。
Q 6	他の団体に横展開できそうな取組、工夫していることなどがあれば教えてください。
Q 7	企業に期待すること・求めることなどがあれば教えてください。

3 回答結果

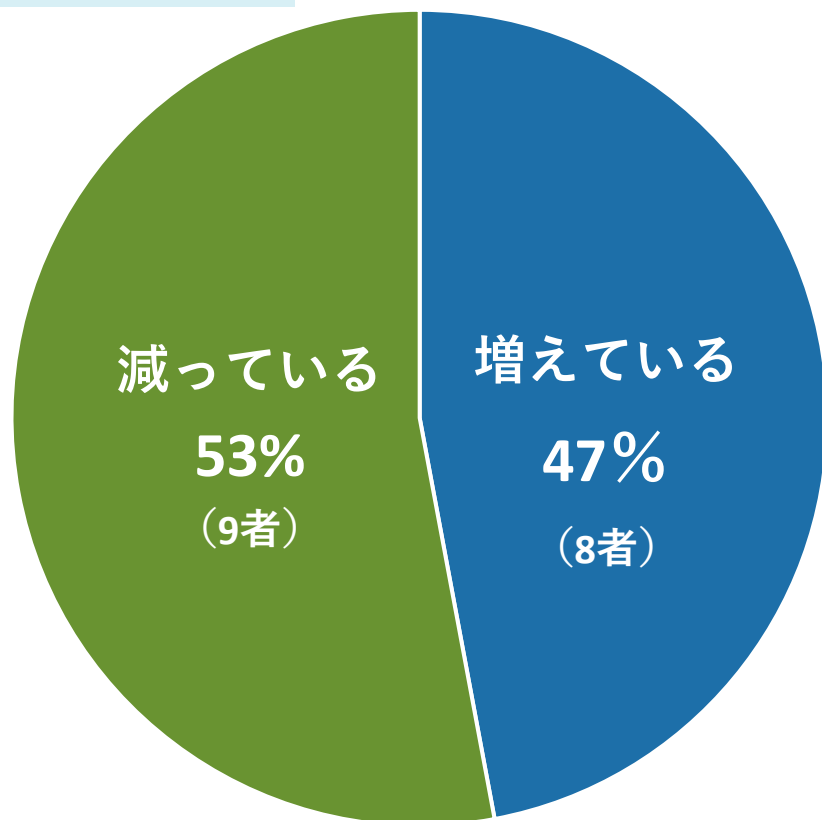
Q1-1 フードバンクで受け入れた食品の量(2020-2025)



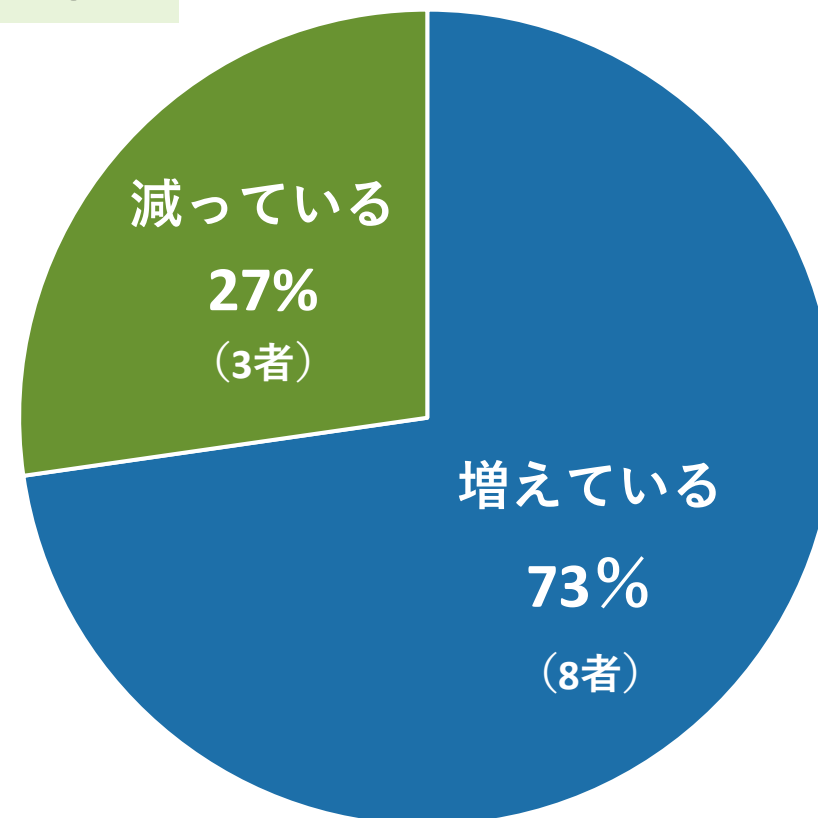
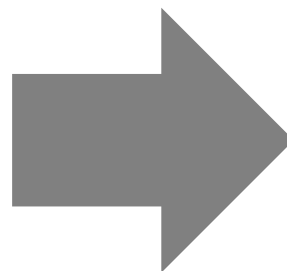
3 回答結果

Q1-2 受入れ量が増えている/減っている理由

2025年度
アンケート



2026年度
アンケート



3 回答結果

Q1-2 受入れ量が増えている/減っている理由

■ 受入れ量が**増えている**理由

- ・政府備蓄米の助成があったため。
- ・地元の認知が少しずつであるが増えている。
- ・企業からの防災備蓄品の寄附が増加。
- ・企業との関係構築が進み、継続的に食品の寄贈を受けることが可能になったため。

■ 受入れ量が**減っている**理由

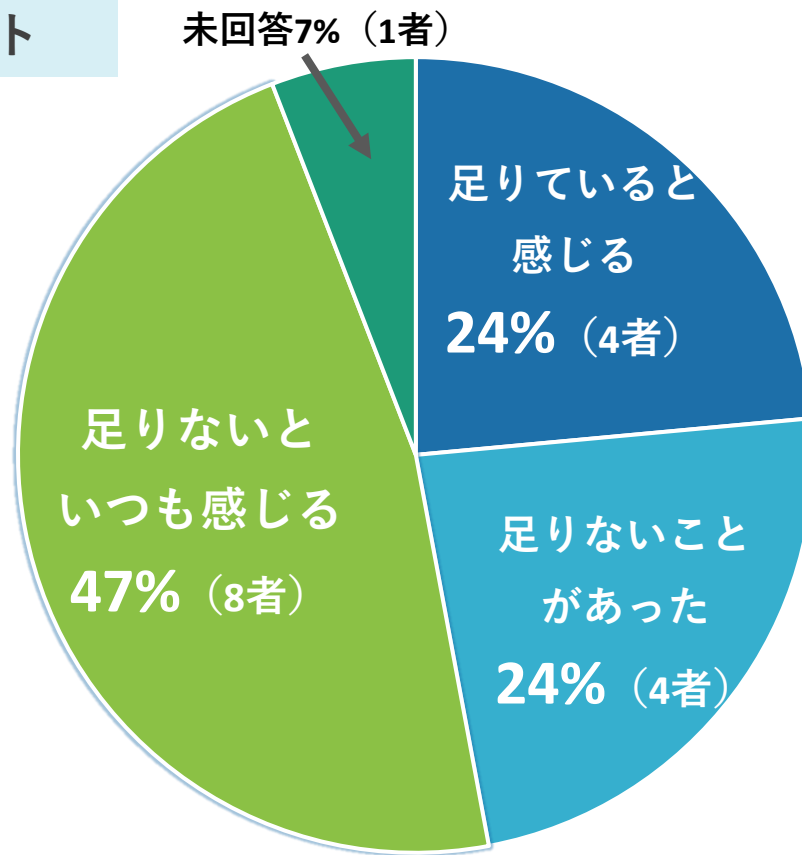
- ・市域でフードパントリー団体が増えているように思う。
- ・物価高騰の影響。
- ・購入資金がないため。



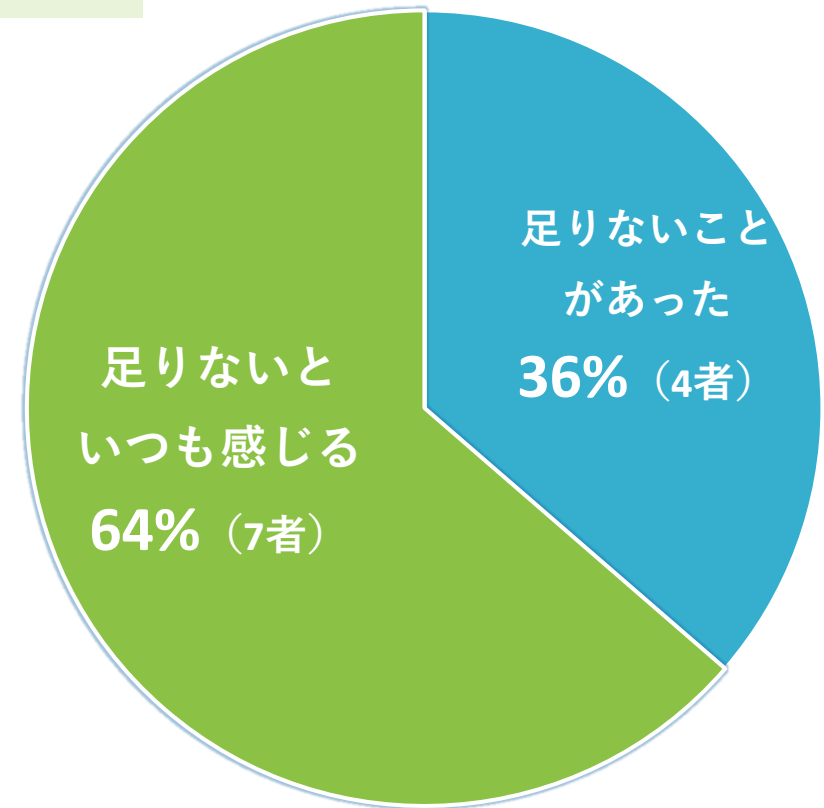
3 回答結果

Q2-1 食品受入量の充足感(足りていると感じるか)

2025年度
アンケート

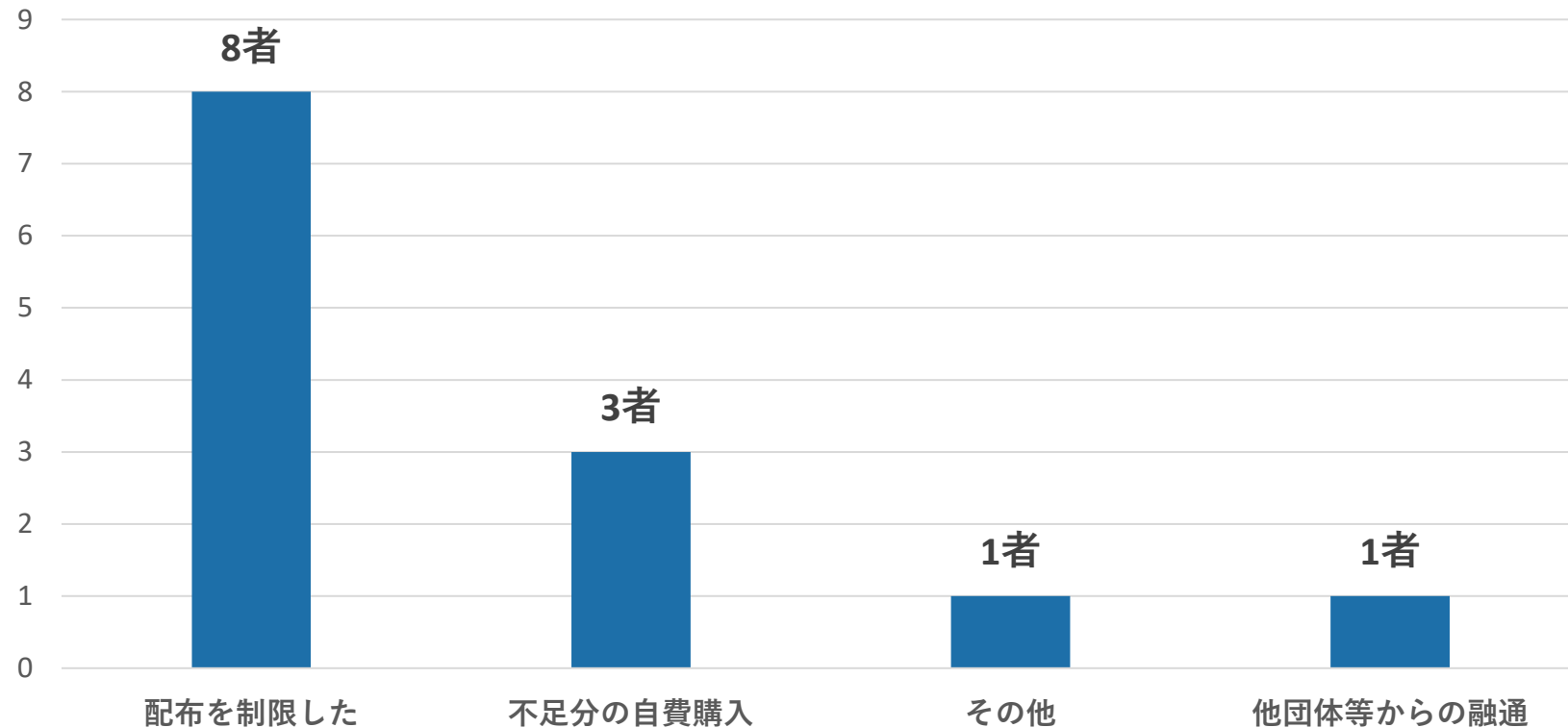


2026年度
アンケート



3 回答結果

Q2-1-2 食品が足りない時の対応について(複数回答)



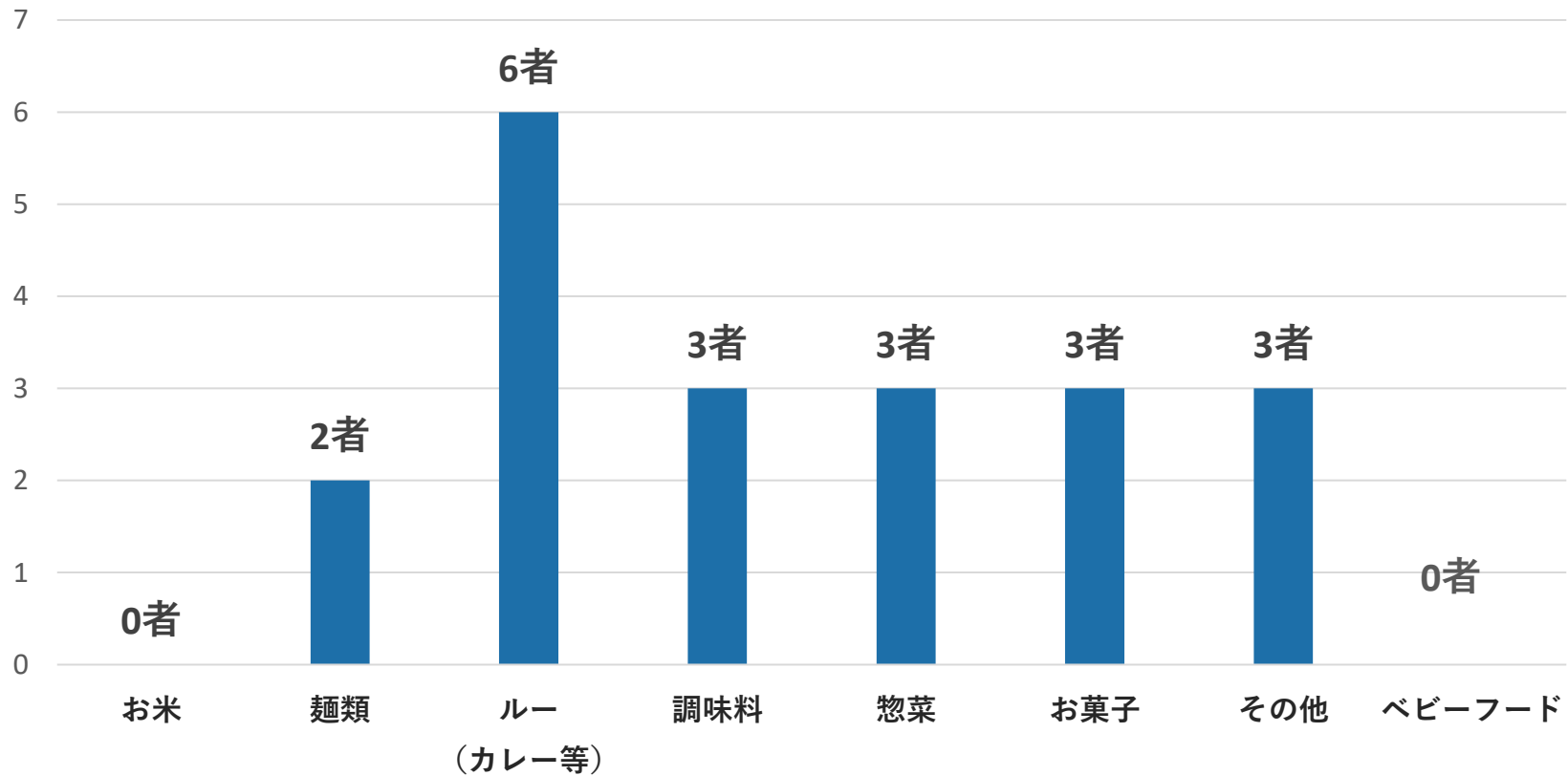
自由記入欄

青葉フードシェアネットワーク
子ども家庭庁の保育園子ども食堂
等補助金や私立財団の補助金を活用し、食品・食材を購入して提供した。

NPO法人さくらの森・親子サポート
ひとり親家庭の子どもの食事等支援事業に申請し食品を購入し配布した。

3 回答結果

Q2-2 特に不足している食べ物(複数回答可)



その他（自由記入）

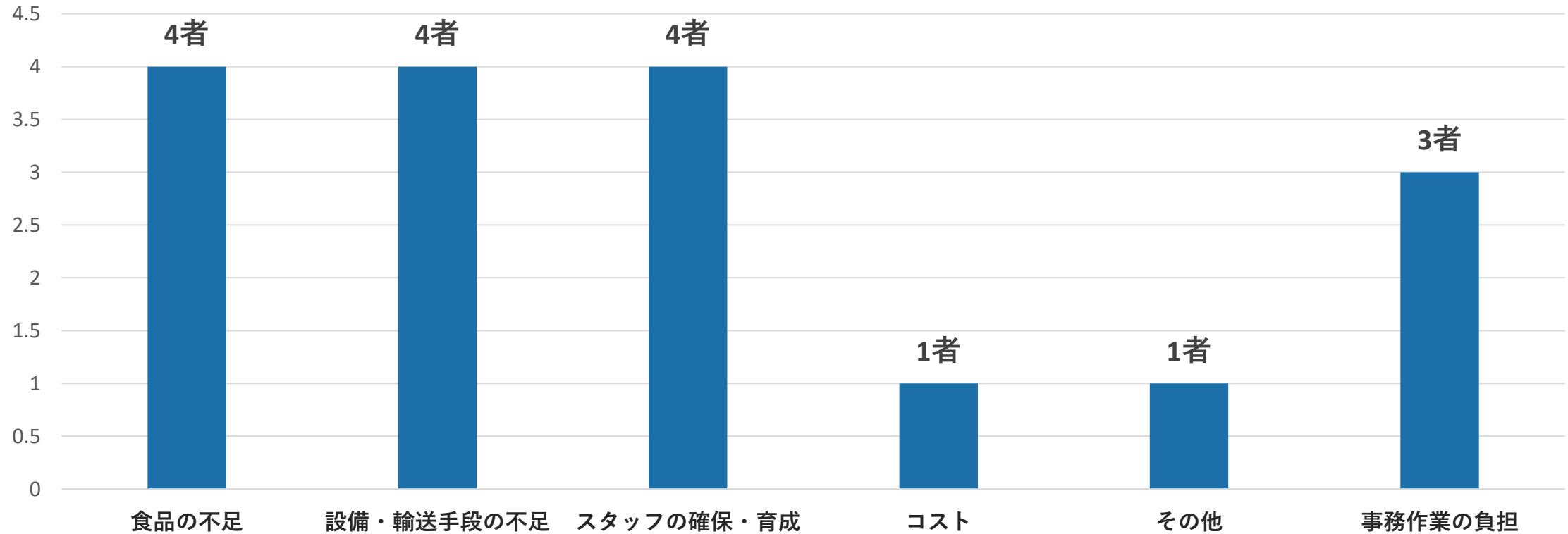
NP0法人フードコミュニティ
冷凍食品

NP0法人フードバンク横浜
缶詰

NP0法人セカンドリーグ神奈川
冷凍食品

3 回答結果

Q3 食品の受け渡しにおける課題について(複数回答)



3 回答結果

Q3 食品の受け渡しにおける課題について(自由記入)

① 食品の不足 について

- ・こども向けの菓子類が全く入荷がない。
- ・フードドライブ品が年々減っていること。

② スタッフの確保・育成 について

- ・活動可能なスタッフが不足している。(集荷・配送仕分け管理)
- ・ボランティアの募集。

③ 事務作業の負担 について

- ・事務担当者がいない。

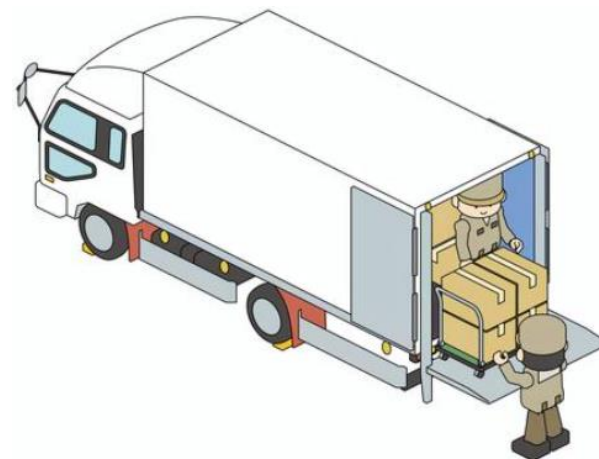


3 回答結果

Q3 食品の受け渡しにおける課題について(自由記入)

④ 設備・輸送手段の不足 について

- ・輸送できるボランティア不足。
- ・フードバンクから届く中継地点まで車を出させる人が少ない。かつ依頼する場合も個人の車でお願いしていること。
- ・いずれも限りがあるが、ニーズは増加の一途。
- ・引取時の車の手配。
- ・倉庫の容量が足りているが、輸送の手段が足りていない。
- ・車を出してくれる協力者・運転できるボランティアスタッフ。

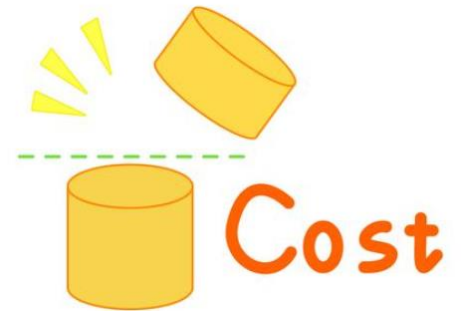


3 回答結果

Q3 食品の受け渡しにおける課題について(自由記入)

⑤ コスト について

- ・助成金の交付があるので不足する食品の補填が可能だが、助成金、政府備蓄米ともに安定財源ではないので、次年度はどうなるかわからないところが課題。
- ・何においてもお金はかかる。
- ・運営のための資金確保に苦慮している。



⑥ その他

- ・賞味期限が短い冷蔵品を受け取り、利用団体に活用してもらうこと。

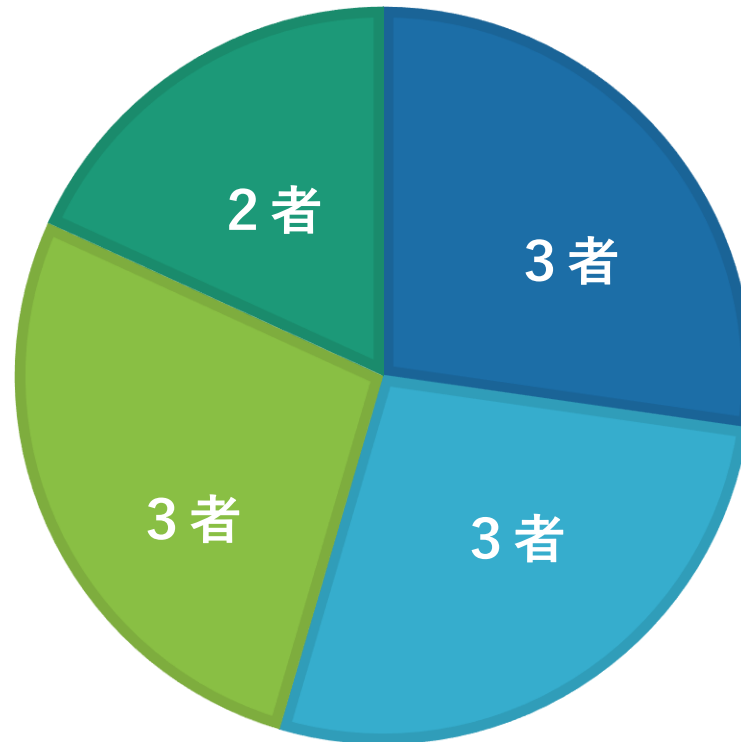


3 回答結果

Q4-1 団体の活動周期

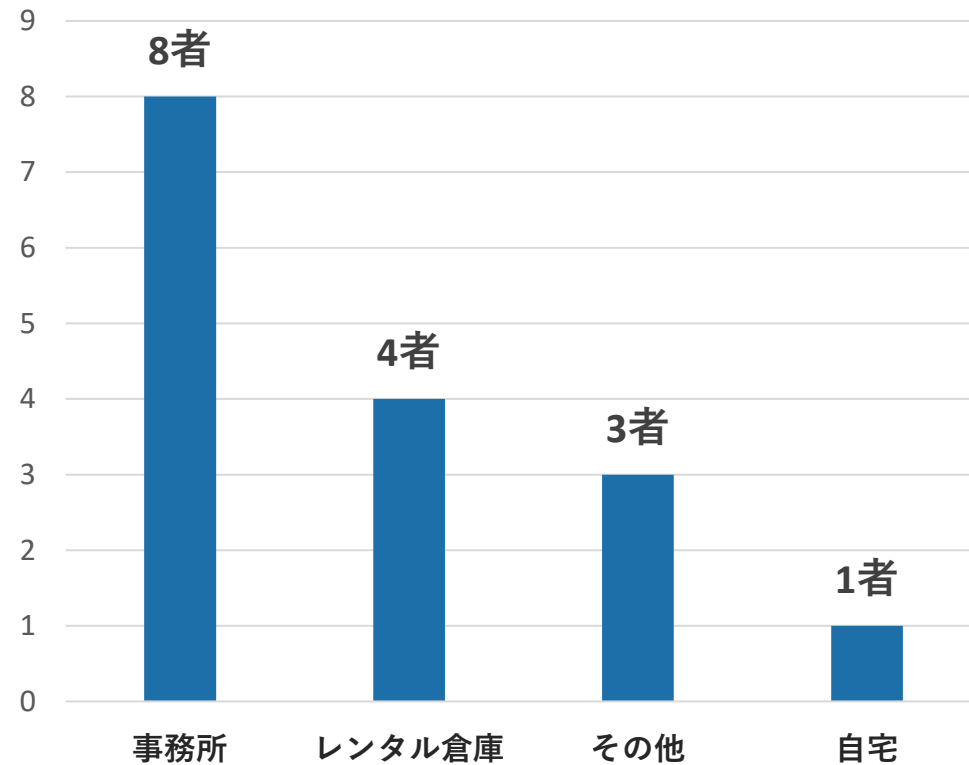
回答

- 月 1 回以上
- 月 4 回以上（週 1 以上）
- 月 8 回以上（週 2 以上）
- 毎日（土日除く）



3 回答結果

Q4-4 食品を管理している場所(複数回答)

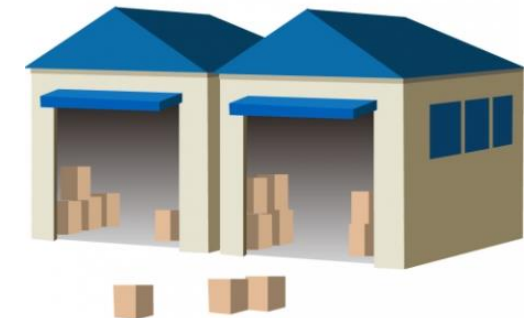


その他（自由記入）

NP0法人さくらの森・親子サポート
法人スペースの土間等

お福わけの会
事務局を置いている団体から 借
りている

NP0法人セカンドリーグ神奈川
生協の冷凍庫、冷蔵庫、常温庫



3 回答結果

Q5 一番課題に感じていること(自由記入)

■中核的フードバンク

(フードバンクかながわ、セカンドリーグ神奈川、NPO法人報徳食品支援センター)

- ・事業を安定して継続するために、
 - ①年会費形式で資金支援をいただける「賛助会員」をより増やす必要がある。
 - ②認知を広め特に神奈川県内の食品寄贈事業者を増やしたい。
 - ③限られた人数のスタッフで、増加する一方のニーズにどう応え、**合理的に業務を進めていけるか**、などが課題。
- ・フードドライブについて、個人からの思いで提供頂くことはありがたいが、**品質保証やトレースするための管理は難しく**、今後国が目指す認証制度なども踏まえると更に扱いは難しくなると感じる。
- ・財政的安定性が不足している事。

3 回答結果

Q5 一番課題に感じていること(自由記入)

■その他フードバンク

- ・ 民間団体が食支援活動を継続するためには、国の助成制度へ毎回苦勞しながら申請しなければならないのが現状。

地域で支援を担う団体が安定して活動を継続できるよう、継続的な支援制度や助成のあり方について見直しをお願いしたい。

- ・ 活動を継続していくための安定した運営基盤の確保。
- ・ 資金・人材・地域連携・情報発信を強化しながら、持続可能な運営体制を構築すること。

3 回答結果

Q5 一番課題に感じていること(自由記入)

■その他フードバンク

- ・ 寄付金不足。
- ・ 活動費の捻出・・・家賃年100万円。
- ・ 資金と人手が足りない、ボランティアさんはいるが高齢者。継続するには限界がある。
- ・ 食品購入資金の不足。
- ・ 地域の店舗など身近な事業所等の食品ロスをなくして、地域で循環するための連携。
- ・ ボランティアの高齢化や体力的な面で、若い力や男性の参加、ドライバー、車の確保などに苦勞している。

3 回答結果

Q6 ほかの団体に横展開できそうな取り組みや工夫していること(自由記入)

- ・株式会社スポーツクラブ相模原（sc相模原）と株式会社ギオンとの連携により、「**ジモトアイプロジェクト：フードドライブ推進パートナー協定**」を締結し、地域ぐるみで食品ロス削減と食支援を推進している。

この取組の特徴は、フードバンク団体だけで活動するのではなく、地域で知名度や集客力を持つ**スポーツクラブ**と、**物流機能を持つ企業が連携している**点。スポーツクラブが情報発信や食品回収の場を提供し、物流企業が食品の運搬を支援し、フードバンクが食品の管理・配布を担うことで、それぞれの強みを生かした役割分担を実現している。

- ・自前開発した**入出庫在庫管理システムの無償供与**。
- ・区内の食支援団体との連携。
- ・食品提供やフードドライブ実施などの申し出があった場合、状況によって**共同で受取を実施**する、代理購入して引き渡す、また他団体を紹介するなど。
- ・青葉区内で、複数の団体が連携してフードドライブ、パントリー活動をしていることや、地域の小学校からの依頼で、このような取り組みを話す**出前授業**をしていること。

3 回答結果

Q7 企業に期待すること・求めること(自由記入)

- ・ **企業の課題を共に考えて改善に向けた提案**できることを伝えたい。
- ・ 食材の提供だけでなく、食品を必要としている方々へ確実に届けるまでの活動全体への支援を期待している。
(資金面での支援や、社員ボランティアの派遣など人材面、企業が持つ物流機能や情報発信力、ネットワーク)
- ・ 配送、保管倉庫、フードドライブへの協力、寄付金など。
- ・ 食品ロスの削減と困窮者支援の両面で貢献できるだけでなく、**廃棄にかかる費用削減にもつながる、寄贈食品のみならず物流費も損金算入**できる等について知っていただき、アクションにつなげていただきたい。
- ・ フードロスになる前にぜひ早めに、食品を地域の食支援活動をしている団体に提供してもらいたい。

